



B I

206



真村正真著

乙三 一本

小學子女兒手引草

京都

書籍會社藏版

榎村正直著

小學子女兒手引草

人に生れたる世

益なき國の報

いふ業なるまじき人  
乃甲斐なるまじきのみ  
如くは衣も食

ふは位なる家の此  
七は物を妨ぐ  
費し程を理

存身天地

恥恐之

女結身

學此道志

父母舅姑仕

孝養

夫在助事兒  
在育之教導  
在生產業成營

稼也世能益  
供官程名働名  
無之計主ぬ事

そのし然る未婦

人の心清能遠ふ  
物ろ初起時

ろは親よ老のし

長しと夫老く

子りりもらむた

本はく一生成過  
をを女の帯を  
孝の思ふはみよ

を家の結肉を治  
るかぬる事ある  
児供の首に善



らぬも多うた

婦人亦教をく

痴文盲より起

はなるは習心

物讀心をある

る智識を聞

基好本迹積り違  
くぬ筆術之用  
ひく盡ぬ無尽

藏與字之て物能  
理正の相く知本六  
疑ひも惑死も

晴くさる曇りの天か

採乃鏡眼くさく

ふの身脩り家

齋を恵あまの祢

き日本より自由を

保つ國の恩報

申る道と外を  
以先つ小學乃  
教より人の人たる

道標未に進みて  
種々の女工結業を  
励む世は益

正成子勉子

龍山述

明治七年

平井義直謹書



明治七年二月

官許

京都書籍會社

河原町通二條下二丁目

大黒屋太郎右衛門